

「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所
〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757
電話連絡先 0282-22-7079(増田) Eメール oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp



QRコード



214号
2025年5月25日発行

「憲法・9条を守り、生かそう！」の声高らかに 平和を願って、憲法記念日にスタンディング



「憲法を守ろう！」「9条を守り生かそう」と、5月3日、憲法記念日の10時からイオン・カワチ前の交差点でスタンディングを行いました。

栃木市民ネットワークと栃木市民の会が中心になって、呼びかけた集会です。約40名ほどの方が参加して、いろいろなプラカードや旗を掲げて、市民にアピールしました。

各会の代表から、「軍事費を削って福祉にあてよう！」「9条はか

なり荒らされているが、9条があるから今の平和がある」「戦後80年、憲法で私たちの生活は守られてきた」など、いろいろな思いが語られました。最後の「憲法守れ！」「戦争は嫌！」などの声を一齐に挙げ、会を閉じました。



当日は東京有明臨界広域防災公園でも集会が持たれ、そこに参

加し、声をあげた人もいます。また午後は、宇都宮で、憲法集会が持たれました。その集会では、沖縄の疎開船「対馬丸」の悲劇を、当時教員で、生き残った母親の遺志を継いで、語り継いでいる上野さんのお話、俳句で当時の世相を批判した俳句人の紹介で、平和の思いを語った武蔵大学名誉教授の永田浩三さんの話がありました。



2025 憲法大集会

5月3日東京有明の臨界広域防災公園で3万8千人が参加して集会が開かれました。

戦後80年の節目に、「LOVE 憲法 世界に平和を」「軍拡ではなく いのち・くらし」「ジェンダー平等 今すぐ実現」などのプラカードを掲げて、憲法を生かして平和な未来を開こうと声を挙げました。



「教育と愛国」上映会 資料代500円

◆日時：8月30日(土)13時30分から

◆場所：栃木市交流センター・大交流室



学術会議解体系案反対
5月7日国会前集会

蝉鳴くな正信ちゃんをおもいだす

～戦後80年憲法記念日の講演会に参加して～

「蕾のままに散りゆけり」

沖縄からの学童疎開船が撃沈された**対馬丸事件**は沖縄戦の悲劇のひとつだ。

終戦1年前、教員の新崎美津子さんは疎開学童834人を引率して乗船し、生き残った。国策に沿って疎開を説得する立場と責任、親御さんたちから預かった子たちを目の前で為すすべもなく海の藻屑にさせてしまった悔い、・・・自身、生涯「生きるべきではなかった」と苦しんできたことなどを晩年になって初めて人前で話された。2006年、新崎さん86歳、太平山麓9条の会の「戦争体験を聞く会」に招かれてのことだった。「対馬丸の子たちを忘れないで」「戦争は絶対だめ」故 新崎さんの遺志を引き継ぎ、娘さんである上野かずこさんがこの日の憲法記念集會でお母様の体験を語った。

「蝉鳴くな正信ちゃんを思いだす」

講演の二人目、永田浩三氏は「原爆と俳句」をテーマに、治安維持法時代から、戦時下、被爆、戦後、そして今に続く平和俳句を数多く紹介された。その中のひとつ 上記の俳句は原爆で亡くなった弟を思って姉が詠み、まもなくこの子も亡くなって、その母親が投稿した句。衝撃的で心をゆすぶられた。17文字が表す魂の叫び、その表現力に圧倒された。俳句の世界にも社会性があり、思想対立があり、時事性がある。俳句で平和、核廃絶、憲法、人権・・・を表現することが 実は大事な歴史の継承だということ、今回の憲法集會で知った。

体験者たちの記憶と遺言を結実させたものが、恒久の平和を誓った日本国憲法だ。現在ガザで、ウクライナで戦闘が続く。「日本を取り巻く国際情勢が変わった」「現状にそぐわない」「有事に備えるため」と政府はすでに沖縄南西諸島にミサイルを配備、有事に備えて島民避難計画まで作っているが 戦争の惨禍を体現した先祖たちを冒瀆する行為だ。いかなる理由でも戦争へつながる軍拡など望まない。

80年目を迎えた憲法記念日に、先人の生き様とその遺言を確認し、継承を誓うよい記念日になった。

学問・研究を軍事協力させる

「学術会議解体法案ってなに?!」

日本学術会議を解体し法人化する法案が、5月13日の衆院本會議で十分な審議をしないまま自民、公明、維新の会の賛成多数で可決されてしまいました。

耳慣れない「学術会議」とは一体何なのか？私たちの暮らしや平和にどう関係するのだろうか・・・。そんな漠然とした思いでいた時、東京大学大学院教授の隠岐さや香さんが、「日本学術会議を解体するための法案は、日本の未来を揺るがす100年に一度の危機的状況だ」と、緊急の動画が配信されてきました。

動画を観て、あらためて学術会議の歴史を学びました。「日本学術会議」は、戦後まもない1949年（昭和24）に、科学が戦争に動員された反省から、政府から独立して仕事を行う、国の「特別機関」だと定めている。日本の平和的復興と人類社会の福祉への貢献を使命とすると明記されています。

日本学術会議を解体するということは、政府の意向に沿う組織に変質させ、学問や科学を政治利用し、戦争の道へと突き進もうとするもの。暮らしに直結する平和の問題、子や孫たちの未来に影響する大事な問題だとわかりました。

5月7日、今週にも採決されるかもしれないと緊急に呼びかけられた、学術会議解体法案に反対する国会前での「人間の鎖」集會に、いてもたってもいられず急ぎ駆けつけました。学者や市民らがスピーチに立ち、軍事研究に役立つように変えてしまう法案、最後まで諦めず廃案にしようと訴えていました。

まだまだ、この法案の危険性が残念ながら国民に浸透されていません。一人でも、この法案の狙いが何なのか！世論を高めて廃案にさせるために声を上げていきたい。

大森八重子（記）